

ガザの病院機能停止

「未熟児ら15人死亡」報道

イスラエル軍の侵攻が続くパレスチナ自治区ガザ地区では、地区最大のシファ病院に患者ら数千人がとどまり、医療崩壊による死者も相次いでいる。北部の複数の病院が止状態になった。世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長は12日、X（旧ツイッター）でシファ病院について「もはや病院として機能していない」と述べた。▼11面II ヒズボラ指導者が演説

英BBCによると、同病院には12日時点で少なくとも患者や医師、避難者ら2300人がいる。イスラエル側は病院の地下にイスラム組織ハマスの軍事拠点があると主張。病院周辺で戦闘を行ったことは認めているが、「包围」ではないとしている。

ガザ保健省によると、同病院の燃料は11日に尽きた。イスラエル政府は12日夜、軍が病院に発電用の燃料3000㍑を提供しようとしたが、ハマスが病院側に渡すのを阻んだと発表。ただ、ロイター通信によると、ハマスはこれを否定する声明を出した。

AFP通信は13日、同省幹部の話として、電力不足が始まった数日で未熟児6人と患者9人が死亡したと報道した。また、同じく北部にあるクッズ病院について、パレスチナ赤新月社は12日、燃料が尽きたと発表。医療スタッフが電気がない状態で負傷者への治療を続けていているといふ。ロイター通信は、ガザ

北部のインドネシア病院では、電気不足の中、爆撃で負傷した乳児を蘇生させるため、手動の装置を使うことを余儀なくされていると報じた。

一方、イスラエルのネタニヤフ首相は11日、イスラエル軍はハマスを壊滅させた後も、「安全管

理の目的でいつでも好きな時に（ガザに）入ることができる」と述べた。ガザを占領するとも受け取れる発言で、米国や政府内の一部が支持する統治のあり方を否定した形だ。米国などは戦後は一定期間を経て、パレスチナ自治政府に統治を委ねる方向を模索している。

また、イスラエル軍は12日、北隣のレバノン国境付近で武装勢力が対戦車ミサイルを発射し、イスラエル側の民間人に被害が出たと発表した。親イランのイスラム教シーア派組織ヒズボラによる

ガザ当局によると、戦闘開始からの死者は12日

時点です1万1180人。（エルサレム＝井上亮）